

行ヲ創立スル爲メ其株主等協議ノ上決定スル所ノ條々左ノ如シ

銀行名號ノ事

第一條 當銀行ノ名號ハ「國立銀行」ト稱スヘシ

本支店設置ノ事

第二條 當銀行ノ本店ハ「府管下第一大區」小區「町」番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クキハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ)

資本金ノ事

第三條 當銀行ノ資本金ハ「萬一千圓」ニシ

(註)圓ヲ以テ一株トナシ總計一株ト定ムヘシ

但シ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ株主等ハ其所持株數ノ割合ニ準シテ此資本金ヲ増減スルヲ得ヘシ尤増加ノ節ハ時宜ニヨリ新ニ株主ヲ募ルヲアルヘシ

第四條 何人ヲリトモ(外國人ヲ除クノ外)荷モ

當銀行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引受ケタルモノハ都テ當銀行ノ株主タルヘシ

株式券狀ノ事

第五條 各株主タルモノハ其引請ケタル株式一箇ニ付キ株式券狀一通宛ヲ領受スルノ權利アルヘシ但シ其雛形ハ左ノ如シ

(茲ニ銀行株式券狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第六條 當銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ當銀行ノ簿冊ニ引合セタル上ニテ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ尤其株式券狀ノ書替ヲナサハル時ハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新故ヲ論セズ其株式券狀ノ名前入ヘ渡スヘシ
頭取取締役撰舉ノ事

第七條 當銀行ノ取締役ハ^(三十)六十株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰舉スヘシ其撰舉ノ初集議ハ一月一日一街ニ於テスヘシ

但シ各取締役ハ右株式券狀ヲ當銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役奉職中ハ決メテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ
第八條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ撰ミ之ヲ頭取トナスヘシ此頭取及ヒ取締役ノ在職年限ハ一个年ヲ以テ限リトスヘシ尤頭取取締役タル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラス
(但シ副頭取ヲ撰任スル時モ亦本條ニ準スヘシ尤此副頭取ハ頭取欠席スル時共事務

ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取締役ト同
機タルヘキ旨ヲ掲載スヘシ

第九條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務取扱フヘ
キ支配人并ニ書記方出納方計算方簿記方等
ノ諸役員ヲ撰任シ又右諸役員等ノ給料ヲ取
定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ同僚ノ衆議ヲ經テ此
役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ

但シ頭取取締役等ハ又銀行ノ支配人以下
諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人
ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役撰舉
ノ法ヲ定メ此撰舉ノ衆議ニ異論起ル時ハ之

ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ權アルヘ
シ

第十一條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規
ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權
アルヘシ尤條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク
當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分
スヘシ

但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例
中ノ罰令ニ從テ各其責ニ任ス可シ

第十二條 頭取取締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊
要ナル申合セ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ
總會ノ事

第十三條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ
日ヨリ後一箇月以内ニ取締役取極ムル所ノ
時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第十四條 第二次以後ノ總會ハ毎年一月一日
第七月一日ニ頭取取締役取極ムル所ノ場所
ニ於テ之ヲ執行フヘシ

但取締役ノ撰舉ハ毎年第一月ノ總會ニ於
テ之ヲ決定施行スヘシ

第十五條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他
ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スヘシ

第十六條 頭取取締役ハ何時ニテモ適當ナリ
ト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ招集スルコ

ト得ヘシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數
當銀行總株ノ五分一ニ下ラサル株主等ヨリ
書面ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何
時ニテモ之ヲ招集セサルコトヲ得サルヘシ
但シ右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目
的ヲ記載シ之ヲ本店ニ差出スヘシ

第十七條 取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チ
ニ此總會ノ招集ニ取掛ルヘシ

但シ取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七
日以内ニ總會招集ノ手續ニ取掛ラサルモ
ハ其請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ
他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分
スルニ當テハ必ズ株主ノ總員(本人又ハ代人
共)十分ノ五以上之レニ出席スルニ非レハ(利
益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ着
手スヘカラス

第十九條 若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キ
テ其定式ノ人員臨席セザリシキハ之ヲ此會
日ヨリ七日目ニ延會ニ此會ト同一ナル場所
刻限ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第二十條 定式臨時ノ別ナル總會ノ議長ハ頭
取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第二十一條 若シ右ノ議長タルモノ總會ノ刻
限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セザリシ
キハ出席少株主中ヨリ一名ヲ撰舉シテ之ヲ
議長ト爲スヘシ

第二十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルニ
ハ可否又ハ同意不同意ナル發言投票ノ數多
キモノヲ以テスヘシ而シテ決議ミノ次第ヲ
銀行ノ簿冊ニ登錄シ議長之ニ記名調印シ以
テ後日ノ參觀證據ニ備ヘ置クヘシ

第二十三條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相
半スルキハ議長ノ助說決票ヲ以テ之ヲ裁決
スヘシ

(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ
掲載スヘシ)

株主發言投票ノ事

第二十四條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ
一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又
十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ増
加シ百一株以上ハ十株毎トニ一箇宛ヲ増加
スヘシ

第二十五條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又
ハ狂癪其他ノ事故アレハ)代人ニテモ若シカ
ラス尤代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其代人ヲ
シムヘシ

(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第二十六條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代
人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルコ
ト得ヌ又株式券狀ヲ當銀行ニ借財ノ爲メ質
入シタル株主ハ自身又ハ他人ノ代人ニテモ
一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條 當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左
ノ如シ

取締役 一人

内

頭取 一人

副頭取	一人(若シ之アラハ)
支配人	一人
書記方	一人
出納方	一人
計算法	一人
簿記方	一人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ右ニ準シテ茲ニ掲クヘシ)

但シ當銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル迄ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做スヘシ

第二十八條 頭取取締役タル者ハ當銀行營業

ノ全體ニ注意シ一切ノ事務ヲ感分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ既ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第二十九條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ受ケ各掛リノ事務ヲ引請ケ其擔當ノ制限ニ依リ頭取取締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ

(右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載スヘシ)
營業一般事務ノ事

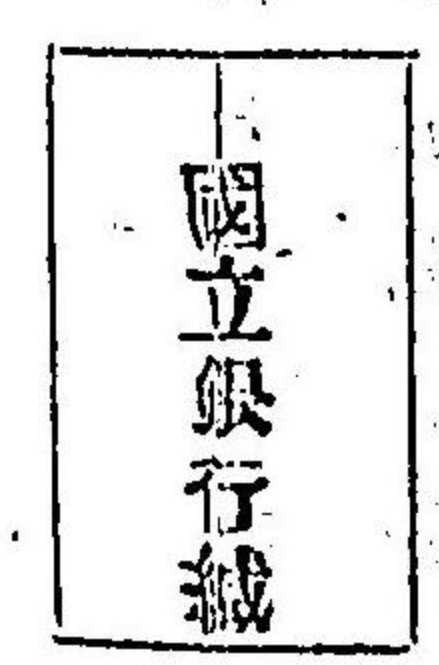
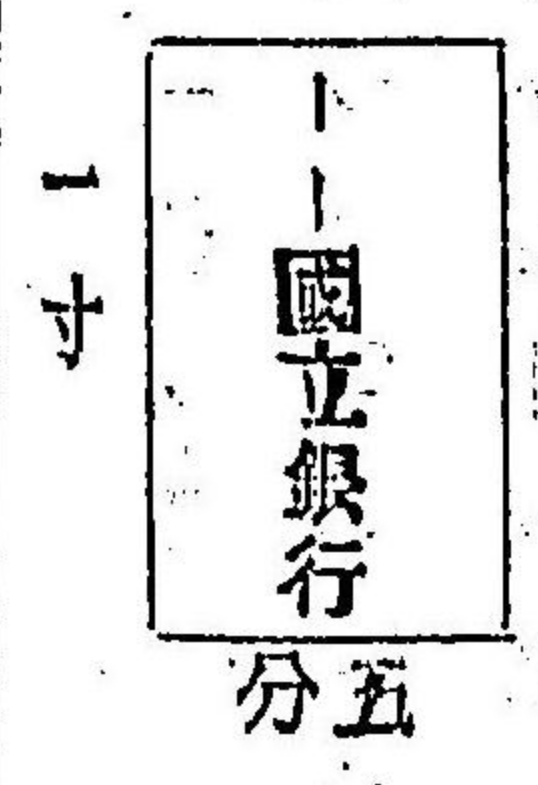
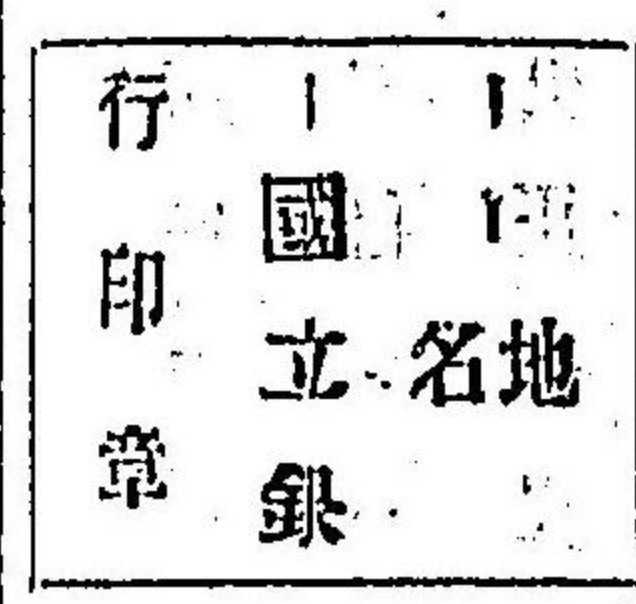
第三十條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日上午第九時ヨリ午後第三時迄ナルヘシ

第三十一條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

第三十二條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ウル所ノ本店(并ニ支店)ノ印章ハ即チ左ノ如シ

一、八分四方

押切印



銀行條例

(此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ)

利益金分配ノ事

(茲ニ銀行ノ利益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ) 諸計算ノ事

(茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閲其他ノ規則ヲ掲載スヘシ)

株主ニ報告ノ事

(茲ニ銀行ヨリ株主等ニ報告スルノ方法ヲ掲載スヘシ)

平穩鎮店ノ事

第三十三條 當銀行三分二以上株主等ノ協議

ヲ經テ紙幣頭ノ承諾ヲ得ルニ於テハ平穩ニ
鎮店スルヲ得ヘシ尤其鎮店ノ手續ハ總テ
國立銀行條例ヲ遵奉シテ之ヲ施行スヘシ
銀行定款更正ノ事

第三十四條 此定款ノ箇條ハ當銀行株主等ノ
格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テ
ハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ
右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其證據ト
シテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也
年號 一年一月一日 各株主連名印

但シ此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定

シ退テ頭取支配人等定リシ上本紙正寫ノ二通
ヘ左ノ與書ヲ加ヘ紙幣頭ヘ指出スヘシ

右ノ一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一
通正寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ儲
ニ之ヲ銀行ニ藏メ置候仍テ其證據トシテ私共
自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號 一年一月一日 一國立銀行支配人

同 姓 名 印
頭取 姓 名 印
紙幣頭何某殿

紙幣頭何某殿

銀行ヘ藏メ置クヘキ正寫ノ與書ハ左ノ如シ

右ハ、国立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙並ニ正寫一通ツ、ハ規則ノ通り之ヲ紙幣察へ差上候仍テ其証據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號 一 年 一 月 一 日

国立銀行頭取

姓名 印

同

支配人 姓名 印

紙幣察之印

右ハ、国立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ當察ニ受取リ其事ヲ承認シタル証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉リ茲ニ記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行へ下付ス

スルモノ也

年號 一 年 一 月 一 日

紙幣頭姓名印

紙幣 察之印

但シ創立証書ハ国立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト共銀行トノ約定書ニ比シテ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀行定款ハ全ク銀行株主等ノ取定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ關係アル者ニ非ス故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至ルマテ苟モ此別ヲ觀ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立証書並ニ銀行定款ヲ相當ト思考スルニ於テハ其開業免狀ヲ其銀行へ下ケ渡スヘシ

銀行條例

然ル後其銀行ハ始メテ名號ヲ公稱シ其業ヲ始ムルコトヲ得ヘシ

但シ紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サ、ル内ハ創立ニ付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免狀

紙幣察割印

一 府管下第一大区一小区一町ニ於テ創立スル一 国立銀行ヨリ差出シタル創立證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債証書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用ス

之ヲ引換フル儀ニ付明治十一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル国立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルコト分明ナルニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ国立銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

右ノ証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號 十一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

但シ右開業免狀ヲ得タル上ハ直チニ其事業ヲ經營
スルヲ得ヘキニ付火盜ノ難ヲ防カンカ爲メ堅固ナ
ル金庫ヲ建築スヘシ

○株金募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之
ヲ世上ニ公告スヘシ即チ何縣管下第何大區何小區何
村何番地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立ス
ルニ付其組合ニ加入セント欲スル人々ハ何月何日ニ
何街何屋ニ來ルヘシ發起人何ノ誰々等ト記載スヘシ
第十條 當日ニ至ツテ右何街何屋ニ於テ發起人等簿冊
ヲ開キ其銀行ノ組合ニ加入セント申込ミタル人々ノ
姓名並ニ入金スヘキ金額ヲ其簿冊ニ書込ミ何月何日

迄ニ入金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿冊ニ書込
ミタル金額ヲ其發起人方ヘ持參スヘシ而シテ其發起人
等ハ其金子引替ニ左ニ掲載セル入金受取証書ヲ其入
金者ヘ渡スヘシ

但シ此書込ミニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額
ヨリ多キキハ割引ヲ以テ入金者ノ出金員額ヲ減少
スルカ又ハ銀行ノ資本金額ヲ最初ノ見込ヨリ増加
スルトモ其發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入金受取証書

印割 一金一圓也

右ハ今般創立ノ「國立銀行株式」ノ内「株」ノ
半高一株ニ付キ「圓」ノ割合ヲ以テ最初ノ入金
トシテ書面ノ通正ニ落手致シ候右株式券狀ハ
追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ
爲後証如件

「國立銀行發起人

年號「年」月「日」

連名印

何某殿

○資本金月賦入金ノ事

第十二條 國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株
主等ヨリ銀行ヘ入金シ殘リ半高ハ五箇月ニ割合ヒ之
ヲ入金スヘシ

例ヘハ資本金拾萬圓ノ銀行ナレハ

一月十五日開業迄ニ入金高	五萬圓
二月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
三月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
四月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
五月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
六月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
合計拾萬圓	

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤六箇
月前ニ悉ク入金シ又ハ開業前ニ資本金總額ヲ入金ス
ルハ其銀行ノ適宜ナルヘシ但シ銀行ニ於テ右月賦入
金ヲ請取ルキハ左ノ請取証書ヲ株主ヘ渡スヘシ

銀行條例

第一回月賦入金請取證書

割 一金一圓也

右ハ當一國立銀行株式ノ内一番ヨリ一番マ
テ一株ノ第一回月賦入金一株ニ付一圓ノ割合
ヲ以テ書面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追
テ総月賦入金相濟候上ニテ交附可致候仍テ爲
後証如件

年號一年一月一日

一國立銀行支配人

銀行之印

同 頭取 姓名印

何某殿

○資本金集合高申牒ノ事

第十三條 株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スル
ルハ其月賦總入金濟迄ハ毎月其銀行ヨリ資本金集合
高届書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高届書

府 縣 管 下 第 一 大 區 一 小 區 一 町 一 村 一 創 立 一 村 一
一 國 立 銀 行 ノ 資 本 金 ト シ テ 一 萬 一 千 圓 ノ 第 一
回 月 賦 一 株 主 等 ヨ リ 入 金 イ タ シ 是 迄 ノ 入 金 ニ
加 算 シ 總 高 一 萬 一 千 圓 ト 相 成 候 也

年號一年一月一日

一國立銀行支配人

銀行之印

同 頭取 姓名印

紙幣頭何某殿

○資本金増減ノ事

第十四條 國立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額ヲ増加スルハ速カニ資本金増加証書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加証書			府管下第一大区一小区一町一国立銀行		
元株數并金額	増株數并金額	合計	住 所	姓 名	
一 株 一 圓	一 株 一 圓	一 株 一 圓	府 縣 管 第 一 大 区 小 區 小 區 村 香 地	納 華 士 族 平 民 何 某	
合 一 株 一 圓	合 一 株 一 圓	合 一 株 一 圓			

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金増加仕候現額

書面ノ通相違無之候也

年號一年一月一日 一 国立銀行支配人

銀行之印

同 姓名印
頭取 姓名印

紙幣頭何某股

右之通相違無之候也

地方長官姓名印

地方官廳之印

紙幣察割印

右一 国立銀行資本金増加証書ヲ差出スニ付年號一年一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル証據トシテ茲ニ記名調印シ併セ

本寮ノ官印ヲ鈐スルモノ也
年號一年一月一日
紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ與書并ニ鈐印シ
テ之ヲ其銀行へ下付スヘシ銀行ハ此與書ヲ得タル
上ニテ公債証書ヲ預ケ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ニ
取掛ルヘシ

第十五條 國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本
金ヲ減少スルルハ諸般ノ手續ヲ經テ後テ紙幣頭へ其
資本金減少証書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如ク

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ
燒捨ノ手續ヲナシ其同額ノ公債証書ヲ紙幣頭ノ手
ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘシ而シテ其準備金モ亦
之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少証書

府管下第一大区一小区一町一國立銀行

減少株數并金額	株 圓	殘株數并金額	株 圓	住	所	姓	名
				府縣管下第一 大区一小区一 町一村一 番地		府縣 華士族平民	何某

合1株 1圓	合1株 1圓		

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高并ニ殘現額共書面ノ通相違無之候也

年號1年1月1日 11國立銀行支配人

銀行之印 同 頭取 姓名印

紙幣頭何某股

右之通相違無之候也

紙幣察割印

地方官
廳之印

地方長官姓名印

右11國立銀行資本金減少證書差出スニ付年號1年1月1日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號1年1月1日 紙幣頭姓名印

紙幣
察之印

銀行條例

右増減証書ハ各二通宛ヲ紙幣察ニ出シ其一通ハ前ノ文例ノ如ク紙幣頭與書鈐印シテ其銀行へ下付スヘ

○公債証書預方ノ事

第十六條 國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四米以上
利付ノ公債証書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ
其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ抵當ナレハ其銀行ノ資
本金額十分八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受取ルヘキ銀
行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條二十二條ヲ參考
スヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債証書ヲ領受シ直チニ假請取
書ヲ其銀行ヘ下付シ退テ紙幣頭連名ノ本請取証書ヲ
製シ其假受取書ト引換フヘシ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 國立銀行ハ右公債証書ノ請取書ヲ領受セハ
其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ頭取支配
人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左
ノ如シ
但シ條例第四十六條ニ準據シテ此注文書ヲ差出ス
可シ

銀行紙幣注文書

府管下第一大区一小区一町ニ創立シタル一
縣管下第一大区一小区一町ニ創立シタル一
國立銀行ニ於テ國立銀行條例ニ從ヒ一萬一
千圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左ニ掲載ス
ル種類員額ノ紙幣製造ノ上御渡被下度候也

			圓	圓	圓	銀行紙幣種類
			圓	圓	圓	枚
			枚	枚	枚	數
			圓	圓	圓	金
			圓	圓	圓	額
合	計	一	圓	圓	圓	額
一	枚	一	圓	圓	圓	額
一	枚	一	圓	圓	圓	額
一	圓	一	圓	圓	圓	額

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証券ノ現額ハ左ノ如シ

		圓枚	公債証券圓枚	公債証券ノ種類金額枚數
		米	米	利息
		百圓ニ付	百圓ニ付	實價割合
		圓	圓	金
		圓	圓	額
合	計	一	圓	額
一	圓	一	圓	額
一	圓	一	圓	額
一	圓	一	圓	額

右之趣謹テ奉願候也

年號 年 月 日

國立銀行支配人

銀行之印

同 頭取 姓名印

紙幣頭何某殿

第十九條 右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ而シテ其銀行ハ之ヲ受取リテ後ヲ受取証書ヲ差出ス可シ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取証書

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	枚	圓	
圓	枚	圓	
合計	枚	合計	圓

右ハ當 國立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也

年號 年 月 日

國立銀行支配人

銀行之印

同 頭取 姓名印

銀行條例

○銀行紙幣發行ノ事

第二十條 國立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルコト於テハ頭取支配人ノ兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ捺シテ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入捺捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テハ更ニ其趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引替テ乞フ可シ

但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ニ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ紙幣察ヨリ受取ルヘシ

○損壞銀行紙幣引換方ノ事

第二十一條 國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣取裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルハ條例第五十一條ニ準據シ頭取支配人ヨリ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其引換ヲ請フヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ記名押印ノ際損傷シタル銀行紙幣ノ引換モ亦此例ヲ以テ申立ヘシ

記

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	1	枚	1圓

					圓
					枚
					圓
合計	1	枚	合計	1	圓

右ハ當銀行發行紙幣ノ内取裂(或ハ汚染)ニテ通
用難相成分書面之通差上候處相違無之候
右取裂(或ハ汚染)ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ

規定ニ從ヒ燒捨ノ立合可仕候尤燒捨濟ノ上右
同種同額ノ新銀行紙幣ヲ御渡可被下候此段奉
願候也

年號 1年1月1日

1 國立銀行支配人

姓名 印

同 頭取

姓名 印

銀行
之印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右取裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ヲハ其代
リ新銀行紙幣ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ
第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其
趣ヲ銀行へ通達アルヘキニ付銀行ハ立合人ヲ紙幣寮

銀行條例

ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合實驗ノ上燒捨證書ニ記名
 調印スヘシ尤此燒捨證書ハ二通ニ認メ一通ハ紙幣寮
 ニ藏メ一通ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ右ノ立合ニハ
 大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰テ銀行ヨリ差出スヘシ
 但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫
 テ燒捨ノ立合人ヲ願置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮
 ニ届ケ置シヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出
 スヘキ取裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以上ノ高ク
 ルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ分チ其封套ニ
 其金額ヲ記載シ前第二十一條ニ掲クル所ノ書面ヲ添
 ヘ之ヲ紙幣寮ニ差出スヘシ尤此紙幣引替ニ付往復運

送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ
 但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員
 之ヲ連接シテ差出スヘシ

第二十四條 取裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參
 シ引換ヲ乞フ者アラハ銀行ノ役員ハ其金額ノ數位ニ
 注目検査シテ之ヲ引換フヘシ尤取裂シテ其紙片ノ全
 備セサルモノト雖モ大藏卿ノ印章アルニ於テハ之ヲ
 引換フヘシ

○株式ノ事

第二十五條 國立銀行ノ株主タルモノハ其所持スル所
 ノ株金總入金濟ミトナリタル時ハ社印ヲ鈐シタル株
 式券狀ヲ一株ニ付一通宛領受スルノ權利アルヘシ其

銀行條例

株式券狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番
 割印 大日本一地名一國立銀行株式券狀
 縣管下第一大區一小區一町一番地何某職儀
 大日本帝國政府ニ於テ制定施行シタル國立銀
 行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ遵守シ年
 號一一年一月一日ヨリ我一一國立銀行株式ノ内
 一(註)圓即チ一株ノ持主タルヲ相違無キ証據ト
 シテ此株式券狀ニ當銀行ノ印章ヲ押捺シ之ヲ
 附與スルモノ也
 此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行へ

表

面

持參スヘシ銀行ニ於テ至當ノ檢査ヲ遂ケ此券
 狀裏面ノ枠内へ頭取支配人記名調印ノ上之ヲ
 差戻スヘシ
 年號一一年一月一日
 一國立銀行頭取
 姓名印
 同 支配人
 姓名印
 銀行
 之印

銀行條例

裏

年號月日	買渡人記名調印	買受大記名調印	頭取記名調印	支配人記名調印

面

第二十六條 若シ右株式券狀磨滅敗裂等ノコアルキハ其趣ヲ書面ニ認メ之カ書替ヲ乞フヘシ若シ又燒亡紛失スルコアルハ其事實ヲ明瞭ニ認メ二人以上ノ證人ヲ立テ各之ニ記名調印シ更ニ新株式券狀ノ受取方ヲ乞フヘシ

但シ株式券狀ヲ書替フル等ノ時ハ銀行ヨリ差圖スル所ノ手数料ヲ拂フヘシ

○株式賣買ノ事

第二十七條 株式ヲ賣買スルニハ之カ證書ヲ製シ賣渡人買受人ノ雙方相當ナル證人ノ眼前ニ於テ之ニ連印シ株式券狀ト共ニ之ヲ銀行ヘ差出スヘシ而シテ頭取支配人ハ兼テ備置キタル株式賣買ノ簿冊ヘ其顛末ヲ登記シ其株式券狀ノ裏面ヘ記名調印シ併セテ右證書株式券狀ノ間ニ割印ヲ捺捺シ再ヒ其株式券狀ヲ其人々ヘ渡スヘシ但シ右ノ手数相濟ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定ムヘシ

第二十八條 右株式賣買證書ノ文例ハ左ノ如シ

株式賣買證書

銀行條例

一、國立銀行株式ノ内第一番(或ハ第一番ヨリ
 一番迄)一株ノ株式何某(茲ニ賣渡人ノ姓名ヲ掲
 シ)所持ノ分代金一圓ニテ今般何某(茲ニ買受
 人ノ姓名ヲ掲シ)へ賣渡シ書面ノ金額受取渡シ
 相濟候處實正也然ル上ハ向後買受人ハ勿論其
 相續人後見人ニ於テモ之ヲ所持シ何某(賣渡人
 ノ姓名)所持中ト同様ノ規約ヲ遵守スヘシ仍テ
 証書如件

年號一、年一、月一、日

府管下第大區小區村番地

賣渡人 姓名印

府管下第大區小區村番地

買受人 姓名印

府管下第大區小區村番地

證人 姓名印

一、國立銀行

御中

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會以前

日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以

テ其趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサ

ルヲ得ヘシ

○株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スル者アリテ其相續人若

銀行條例

シハ後見人シ右株式ヲ讓受シヘキモソハ銀行ノ要求
セル然ルヘキ證據ヲ差出シタル上ニテ其銀行ノ株主
トシテ株主牒ノ記載ニ入ルコトヲ得ヘシ

○株式没入ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ル
時ハ頭取取締役等ハ條例第三十二條第三十三條ニ準據
シテ之カ處分ヲナスヘシ

○總會ノ事

第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行共開業免狀ヲ受ケ
ヨリ以後三箇月以内ニ於テ其頭取取締役ノ取極メ
ル時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ
第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何

シモ然ルヘキ日ニ於テ)頭取取締役ノ取極ムル所ノ時
日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分テ前條ニ
掲載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總
勘定ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ

頭取支配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ顛末ヲ記載シ
タル書類ヲ稽查審按スル等ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ
總會ヲ臨時總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處
分スヘシ

第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當ツテハ其
取極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ(若シ格段決議
ニ付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ記載シ)少ナクトモ

日數七日以前に於て之を總株主へ通知スヘシ而シテ右
ノ如ク手數ヲ爲セシ上ハ假令ヒ株主ノ内右報告書ヲ
受承セサルモノアルトモ此總會ノ手順ニ於テハ既ニ
盡セシモノト爲スヘシ

但シ銀行ヨリ株主へ報告スルノ書類ハ之ヲ直達ス
ルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルモ都テ銀行ノ
便宜ニ任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考
スルカ又ハ株主ノ八員十名ニ下ラスシテ其所持ノ株
數總株ノ五分一以上ニ及フモノヨリ之ヲ請求スルカ
ニ於テハ何時モ臨時總會ヲ執行フコトヲ得ヘシ
第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會

ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便其他ノ手續
ヲ以テ之ヲ頭取取締役へ送達スヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ
其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役右請求ヲ承
知セシ日ヨリ日數七日ノ内ニ招集ノ手續ヲナサハル
ルハ右請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ其他ノ株
主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當
ツテハ必ズ株主ノ總員本人又ハ代人共十分ノ五以上
之ニ出席スルニ非サレハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除
クノ外)何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任ス

第四十一條 右議長若シ會集スヘキ刻限ヨリ十五分時
間ヲ過キ猶ホ臨席セカリシキハ出席株主等ノ内ヨリ

一人ヲ公撰シ以テ議長ト爲スヲ得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニハ(可否又

ハ同意不同意ノ發言若シクハ投票ニテモ)其説ノ多數

ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ登錄シ併セテ

其決議濟ミノ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ檢印シ以テ

後日ノ參觀證據ニ備ヘ置クヘシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニ若シ發言

投票ノ數相半ハスルキハ議長ノ助説若シクハ決票ヲ

以テ之ヲ裁決スヘシ

○株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各其所持セル株數十箇迄

ハ一株毎トコ一箇宛ノ發言投票ヲナスヘシ又十一株

以上百株迄ハ五株毎トコ一箇宛ヲ増加シ百一株以上

ハ十株毎トコ一箇宛ヲ増加スルヲト定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナ

リテ發言投票スルノ權利ヲ有スルヲ得ス又株式券

狀ヲ借財ノ爲メ其銀行ヘ質入シタルモノハ總會ニ於

テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿

カルヘシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癡其

他ノ事故アルニ於テハ)代人何レモ勝手タルヘシ尤代

銀行條例

八、其銀行ノ株主中ノ者ニ限リ之ニ委任狀ヲ與ス以テ之ヲ差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サスシテ決議ノ後如何ナル異議アルトモ一切之ヲ申立ツルコトヲ得サルヘシ

第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年號一 年一 月一 日 一 國立銀行ノ定式(又ハ臨時)總會及ヒ其延會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件

年號一 年一 月一 日 一 國立銀行株主

姓名 印

一 國立銀行 御中

○諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 何人

内 頭取 一人

副頭取 何人(若シ之アラハ)

支配人 何人

書記方 何人

出納方 何人

計算方 何人

簿記方 何人

但シ右ノ如ク制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ
廢置兼攝シ若シクハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘ
シ尤取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨ
リ減少スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クル時
ハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フヘシ

第四十九條 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營
業ノ全體ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任
スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之
ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如
キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ
得ス

第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ
撰舉シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ
事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘ
シ

但シ副頭取ハ頭取欠席スルモ其事務ヲ代理スル迄
ニシテ平日ハ取締役ト同様ノ職任タルヘシ
第五十一條 左ニ掲ケル人々ハ取締役タルヲ得ヘカラ
ス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所持セ
サル株主

但シ資本金拾萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行
ナレハ三十株一株五拾圓ノ銀行ナレハ六十株

銀行條例

又資本金拾萬圓未滿五萬圓以上コソテ一株五拾圓ノ銀行ナレハ三十株一株二十五圓ノ銀行ナレハ六十株ノ割合タルヘシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分二ハ本店設立ノ地方ニ於テ少ナクトモ一箇年間住居セシモノタルヘシ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券狀三十箇又ハ六十箇(前第五十一條中第一項ニ掲クル所ノ割合)ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役ノ奉職中ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ

第五十四條 頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議コテ

取極メヨル給料旅費及ヒ賞與金手當并ニ株主ノ場ニテ受取ルヘキ分配利益金ノ外自餘ノ所得ヲ受クルコトヲ得サルヘシ

第五十五條 取締役ノ撰舉ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ投票ヲ以テ之ヲ撰舉スヘシ尤不時ニ欠員アルモハ臨時總會ニ於テ之ヲ撰舉スヘシ

第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰舉セラル、所ノ取締役ハ直チニ誓詞ニ通テ認メ其地方長官ノ面前ニ於テ調印シ本紙ハ紙幣頭ニ差出シ寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ其文例ハ左ノ如シ

頭取ノ誓詞
 府管下第一大区一小区一町ニ於テ創立シタ
 ル一国立銀行ノ取締役何某謹テ左ノ條々ヲ
 誓フ
 私儀ハ一府ノ華士族ニシテ一府管下第一大区
 一小区一町ニ居住イタスニ相違無之事
 當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ
 忠實ニ取扱フヘキ事
 私在職中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一個條々
 リトモ決シテ犯ス間敷又他人ヲシテ犯サセ間
 敷事

国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資
 本金中ノ三十株ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違
 無之事
 右ノ株式券狀ハ国立銀行條例成規ノ規定ニ從
 ヒ當銀行へ預ケ置キ在職中ハ決シテ引出ス間
 敷候事
 府管下第一大区一小区一町一国立銀行頭取
 縣管下第一大区一小区一町一国立銀行取締役
 姓 名 印
 年號一 年一 月一 日書面ノ者余カ面前ニ於テ調
 印シ誓約致シ候事相違無之候也
 地方官
 廳之印
 地方長官姓名印

但シ此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ
 第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ撰學サレタル時ハ新任ノ印影ヲ添へ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ最初撰學ノ時差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元役ヲ除クハ勿論タルヘシ

上任報告

當一月一日何某儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何某儀ハ支配人ニ命セラレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

年號一年一月一日

一國立銀行

銀行之印

紙幣頭何某殿

元支配人姓名印
 元頭取姓名印
 新支配人姓名印
 新頭取姓名印

用紙美濃紙堅七寸幅二寸

年號一年一月一日何某代リ
 何役撰學

銀行之印

印鑑

小印

宿所

一府華士族平民

姓名

一年一月

第五十八條 頭取取締役ハ其職務ヲ舉ル爲メ少クモ毎
 月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲シ以テ其事務ヲ評議處
 分スルコトヲ得ヘシ而シテ此集會ノ體裁方法ハ總會ノ手
 續ニ準據シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ
 從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一箇
 年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年限中必ス
 勤仕スルモノト爲スヘシ

但シ頭取取締役ノ在職年限ハ本條掲クル所ノ如ク
 ト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公撰ヲ以テ重年上任
 スルヲ得ヘシ尤重年上任シタルキハ第五十六條五
 十七條ニ準據シ更ニ誓詞并ニ上任報告ヲ紙幣頭ヘ

差出スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取締役
 ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤支配人ハ銀行ノ事業
 ヲ處分スル重任ナシハ株主ニ非ル者ニテモ須ラシ熟
 練ノ人ヲ撰フヘシ且其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ル、
 ハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

○社中申合規則ノ事

第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金
 分配ノ手續諸役員ノ權限分課給料旅費ノ定則及ヒ其
 褒貶進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜掲載シタル社
 中申合規則ヲ議定スヘシ尤右申合規則ハ條例成規ノ
 旨趣ニ背戾セサルハ勿論タリト雖モ其社中ノ申合ニ

止ルヲ以テ更ニ紙幣頭へ差出スニ及ハサルヘシ

○利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ(株主ノ總會ヲ經テ)銀行ノ利益金ヲ株主銘々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主へ報知スヘシ

○諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差圖ナル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ

第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同へ明示スヘシ

○諸願何屆等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願何屆報告其他凡ソ諸官廳へ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ラズ本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

○國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖ナル處ノ書式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣寮ヨリ拂下シヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行半季利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告

第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテニ紙幣頭
ニ差出スヘシ尤遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シ
タル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭ニ差出スヘシ
尤遠隔ノ地方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕
スヘシ但シ支店毎月報告ハ其本店ヲ經ルニ及ハス其

支店ヨリ直チニ紙幣頭ニ差出スヘシ右ノ外紙幣頭ノ
考按ニヨリ臨時實際ノ報告ヲ差出サシムルコトアルヘ
シ尤右臨時報告ノ差出方ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘ
シ

右之通相定候事

明治九年八月一日

太政官

(改正) 明治八年三月二日
太政官第五號布告

明治九年八月第六號布告國立銀行條例第十八條左ノ通
改正シ明治十年十二月第八十三號布告同條例追加取消候
條此旨布告候事

銀行條例

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新クニ創立ヲ願フ者アルトキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコトアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四厘以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場)ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ

但公債證書ノ時價低下スルトキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

(參考) 明治十一年七月二日
太政官第十六號布告

今般新ニ銀行紙幣五圓札ヲ製造シ從前ノ銀行紙幣ト取交セ各國立銀行ニ交付令發行候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布告候事

(參考) 明治六年五月三十日
大藏省第八十五號達

各地方於テ從前掛屋名義ノ者有之候處現今其縣銀行ト相唱掛札致シ候向モ有之趣元來銀行之名

稱ハ其條例ヲ踐候上ニテ紙幣寮ヨリ許可ヲ受相
唱候儀ニ付猥リニ銀行ノ名目相唱候ハ不都合ノ
次第ニ付私ニ銀行ト相唱候儀一切不相成候條各
地方應於テ不波様相違右様ノ者有之候ハ、早々
改稱可申付候此段相違候事

(參考) 明治六年八月廿日太
政官第三百四號布告

今般東京第一國立銀行ニ於テ國立銀行條例之趣
意ニ據リ公債証書ヲ抵當トシテ本年八月廿日ヨ
リ別紙見本ノ通二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ
紙幣ヲ發行セシメ海關稅及ヒ公債証書之利息ヲ
除ク之外租稅其他一切公私ノ取引等總テ正金同

様通用セシメ候條此旨可相心得最右紙幣之儀ハ
何時ニテモ銀行本店並橫濱大坂神戸之枝店ニ於
テ人民ノ望次第無差支正金ト引換ル筈ニ付無疑
念取引可致依テ銀行紙幣見本相添此旨布告候事
(見本畧之)

(參考) 明治六年十月十八日太政
官第三百五十一號布告

東京第一國立銀行紙幣ノ儀東京本店並ニ橫濱大
坂神戸ノ枝店ニ於テ引換候旨本年八月第三百四
號ヲ以布告候處東京ハ第一大區小十五區兜町大
坂ハ東大組第十三區高麗橋通四丁目ニ於テ別店
ヲ設ケ引換專務爲取計候條望ノ者ハ右兩所ノ内

可申出此旨布告候事

(參考) 明治六年十一月十四日太
政官第三百七十八號布告

今般大坂第五國立銀行ニ於テ國立銀行條例ノ趣
意ニ據リ公債証書ヲ抵當トシテ本月十七日ヨリ
二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシ
メ海關稅并公債証書ノ利足ヲ除クノ外租稅其他
公私ノ取引等總テ正金同様令通用候條此旨可相
必得尤右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ人民ノ望次第左
ノ場所ニ於テ無差支正金ト引換ル管ニ付聊無疑
念取引可致此旨布告候事
但紙幣ノ儀ハ本年八月第三百四號布告第一國

立銀行ニ於テ發行ノ品ト同様ニテ唯表面銀行
名號地名及ヒ頭取支配人ノ名印並裏面割印相
異リ候迄ノ儀ニ付別段見本相添サル事

第五國立銀行發行紙幣正金引換場所
本店 大坂西大組第十三區立賣堀五丁目
支店 東京第一大區十四小區新和泉町

(參考) 明治六年十二月廿日太
政官第四百十四號布告

本年十一月第三百七十八號布告訂正
第五國立銀行發行紙幣正金引換場所本店大坂西
大組第十三區ハ第十區ニ候條此旨更ニ布告候事

(參考) 明治七年二月十日太

政官第十八號布告
今般新瀉第四國立銀行ニ於テ國立銀行條例ノ趣
意ニ據リ公債証書ヲ抵當トシテ本月二十日ヨリ
二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシ
メ海關稅並公債証書ノ利足ヲ除ノ外租稅其他公
私ノ取引總テ正金同様令通用候條此旨可相心得
尤右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ人民ノ望次第左ノ場
所ニ於テ無差支正金ト引換ル等ニ付無疑念取引
可致此旨布告候事

但本文紙幣ハ明治六年八月第三百四號布告第
一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同様ニテ唯表面
銀行名號地名及ヒ頭取支配人ノ名印並裏面割

印相異リ候迄ノ儀ニ付別段見本相副サル事

第四國立銀行發行紙幣正金引換場所

本店 新瀉縣下第一大區小二區越後國

支店 東京第五大區四小區和

(參考) 明治十年十二月二十八
日太政官第九十號布告

今般新ニ銀行紙幣一圓札ヲ製造シ從前ノ銀行紙
幣ト取交セ國立銀行ニ交付令發行候條公債証書
ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ
取引上總テ無疑念受授可致尤モ新立ノ銀行ヨリ
令發行候節ハ其時々大藏卿ヨリ可及布達此旨布
告候事

但シ見本ノ儀ハ其管轄廳ヨリ可相達事

(參考)

明治二十一年三月十九日內務省

乙第九號ヲ以府縣ニ達

明治八年十二月二十九號太政官達書ノ內當省
事務章程上款第十八條下款第廿七條左ノ通改正
相成候條此旨相達候事

上款

第十八條 諸銀行及ヒ右類似ノ會社(金錢ヲ貸出

シ之ヲ預リ兩換シ爲換ヲ取組等ヲ以專業トナ

ス者)并株式取引會社及右類似ノ會社(公債証書

洋銀等賣買相場立ヲ以專業トナス者)及米商會

所並鐵山鐵道電信燈臺ニ係ル會社ヲ除クノ外

諸會社ノ規則ヲ創立更正スル事

下款

第廿七條 諸銀行及右類似ノ會社(金錢ヲ貸出シ

之ヲ預リ兩換シ爲換ヲ取組等ヲ以專業トナス

者)并株式取引會社及右類似ノ會社(公債証書洋

銀等賣買相場立ヲ以專業トナス者)及米商會所

並鐵山鐵道電信燈臺ニ係ル會社ヲ除クノ外諸

會社ノ設立ヲ准允スル事

(參考)

明治七年七月廿九日
太政官第八十號布告

今般橫濱第二國立銀行ニ於テ國立銀行條例ノ趣
意ニ據リ公債証書ヲ抵當トシテ來ル八月十五日

ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行
シ海關稅并公債證書ノ利息ヲ除クノ外租稅其他
公私ノ取引等總テ正金同様令通用候條此旨可相
悉得尤右紙幣ノ儀ハ何時ニテモ人民ノ望次第左
ノ場所ニ於テ無差支正金ト引換候筈ニ付聊無疑
念取引可致此旨布告候事

但紙幣ノ儀ハ明治六年八月三百四號布告第一國
立銀行於テ發行ノ品ト同様ニテ唯表面銀行名
號地名及ヒ頭取支配人ノ名印並裏面割印相異
リ候迄ニ付別紙見本相添サル事

第二國立銀行發行紙幣正金引換場所

本店 武藏國久良岐郡橫濱本
町三丁目第二國立銀行

(參考) 明治七年十月廿九日太
政官第百十六號布告

明治六年十一月第三百七十八號布告第五國立銀行
發行紙幣正金引換場所支店東京第一大區十四小
區新和泉町ニ候處今般同大區同小區蠟燭町一丁
目ニ移轉候條此旨更ニ布告候事

(參考) 明治九年十月十日大
藏省甲第廿一號布達

本年八月一日第百六號ヲ以テ布告相成候國立銀
行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第一國立銀
行ヨリ出願候ニ付願意聞届九月廿六日開業免狀

銀行條例

下付シ銀行紙幣發行セシメ同銀行東京本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用候得共頭取支配人ノ名印ヲ朱消シ更ニ當任ノ頭取支配人ノ名印ニ改メ候事

(參考) 明治九年十月十二日大藏省甲第廿三號布達

本年八月一日第百六號ヲ以テ布告相成候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第五國立銀行ヨリ出願候ニ付願意開屆本月五日開業免狀下

付シ銀行紙幣發行セシメ東京第一大區十四小區彌敷町一丁目一番地ニ在ル同銀行本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用候事

(參考) 明治九年十二月二日大藏省甲第二十五號布達

本年八月一日第百六號ヲ以テ布告相成候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第二國立銀行ヨリ出願候ニ付願意開屆十一月廿八日開業免

狀ヲ下附シ銀行紙幣發行セシメテ神奈川縣下第一
 大區一小區橫濱本町三丁目五十三番地ニ在ル同
 銀行本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証
 書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私
 ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨布達候事
 但銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用サセ
 候事

(參考) 明治九年十二月九日大
 藏省第二十七號布達

今般國立銀行條例ノ旨趣ヲ遵奉シ東京府管下第
 一大區十四小區小舟町三丁目十番地ニ設立シテ
 ル第三國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當シナシテ

ニ引換ノ準備金ヲ置キ二十四圓十四圓五圓二圓一圓
 五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以
 テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除ク
 ノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授
 可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告
 第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同様ニシテ唯
 表面銀行ノ名號地名及頭取支配人ノ名印並ニ
 裏面割印ノ異ナル耳ニ付別段見本相添ヘサル
 事

(參考) 明治九年十二月廿五日
 大藏省甲第三十號布達

本年八月一日第百六號ヲ以テ御布告相成候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第四國立銀行ヨリ出願候ニ付願意開屆本月十九日開業免狀下附シ銀行紙幣發行セシメ新潟縣下第一大區小二區新潟町東堀前通七番町四百二十四番地ニ在ル同銀行本店於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用候事

(參考) 明治十年二月廿一日
大藏省甲第六號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ福島縣管下第一區福島町木通七丁目百七拾六番地ニ於テ設置シタル第六國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ

唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年二月二十二日 大藏省甲第七號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ高知縣管下土佐國第八大區一小區種崎町百八拾二番地ニ於テ設置シタル第七國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引替準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓二圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ何時ニテモ人民ノ望ニ應シ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公

私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右紙幣之儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年二月廿七日 大藏省甲第九號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ愛知縣管下第拾七區三河國渥美郡豐橋本町拾壹番地ニ於テ設置シタル第八國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引替準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ何時ニテモ人民ノ望ニ應

右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十一年三月廿五日
大藏省甲第八號布達

第八國立銀行發行紙幣ノ儀同銀行本店愛知縣管下第十七區三河國渥美郡豐橋本町十一番地ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候旨明治十年當省甲第九

號ヲ以テ及布達置候處今般該本店右同國郡豐橋關屋町乙三番地ニ移轉致シ候ニ付爾後同所ニ於テ交換爲致候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十年三月廿八日大
藏省甲第十三號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ山梨縣第一區甲府常盤町二番地ニ於テ設置シヨル第十國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ
貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ何時ニテモ人民ノ望ニ應シ右本店ニ於テ通貨ト交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授

可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告
第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯
表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ
裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサ
ル事

(參考) 明治十年五月十一日大藏省甲第十六號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ大坂府下第一大區四
小區今橋二丁目十四番地ニ設置シタル第十三國
立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準
備金ヲ置キ二十圓十四圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣

ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致
候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅共
他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布
達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告
第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯
表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ
裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサ
ル事

(參考) 明治十年五月廿四日大藏省甲第十七號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ東京府下第一大區十

小區木挽町七丁目六十八番地ニ設置シタル第十
 五國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引
 換準備金ヲ置キ二拾圓拾圓五圓二圓壹圓五種ノ
 紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換
 爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租
 稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此
 旨布達候事

但シ右紙幣ハ明治六年八月第三百四號布告第
 一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ只表
 面銀行ノ名稱裏面銀行ノ割印頭取支配人名印
 ノ異ナルト右名印並ニ記録頭ノ印ニ用ル肉色
 ノ殊別有之ノニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年七月十六日大藏省甲第十九號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ愛知縣下第一區名古屋
 屋茶屋町三番地ニ設立シタル第十一國立銀行ニ
 於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置
 キ本月十八日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種
 ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交
 換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外
 租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致
 此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號第一
 國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面
 銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並ニ裏面

割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年八月一日大藏省甲第二十號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ長野縣下信濃國筑摩郡松本南深志町一番町二百二番地ニ設立シタル第十四國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告

第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一コシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年八月三日大藏省甲第二十一號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ東京府下第一大區十五小區南茅場町二十番地ニ設立シタル第二十國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ來ル十日ヨリ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除

ノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受
授可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告
第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯
表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ
裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサ
ル事

(參考) 明治十年八月二十日大
藏省甲第二十四號布達

石川縣下第十大區小八區金澤町下堤町ニ設立シ
タル第十貳國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナ
シ更ニ引換準備金ヲ置キ本月廿六日ヨリ貳拾圓

拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本
店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利
息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引
上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告
第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯
表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏
面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘカル事

(參考) 明治十年九月二十二日大
藏省甲第二十五號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ岐阜縣管下第一大區
一小區岐阜松屋町十一番地ニ設立シタル第十六

國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換
準備金ヲ置キ來ル十一月一日ヨリ貳拾圓拾圓五
圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於
テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海
關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ
無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣之儀ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ヨシテ
唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並
ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘ
サル事

(參考) 明治十年十月十五日大藏省甲第二十七號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ福岡縣下第二大區一
小區福岡橋口町八拾六番地ニ設立シタル第十七
國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換
準備金ヲ置キ來ル十一月一日ヨリ二十圓十圓五
圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於
テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海
關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ
無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ヨシテ
唯表面銀行ノ名稱地名及ヒ頭取支配人ノ名印

並ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添
ヘサル事

(參考) 明治十年十月三十一日大
藏省甲第二十九號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金五萬圓ヲ以大
分縣下第三大區一小區豐後國大分郡大分町五百
四十七番地ニ設立シタル第二十三國立銀行ニ於
テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ
來ル十一月十一日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓
五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以
テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除ク
ノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授

可致此旨布達候事

但、右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ
唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並
ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘ
サル事

(參考) 明治十年十一月五日大
藏省甲第三十號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金拾萬圓ヲ以テ
長野縣管下北第拾壹大區四小區信濃國小縣郡上
田町百番地ニ設立シタル第十九國立銀行ニ於テ
公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ本

月八日ヨリ廿圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切分私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年十一月五日大藏省甲第三十一號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金五方圓ヲ以テ岡山縣管下第一大區四小區備前國御野郡岡山船着町七拾壹番地ニ設立シタル第二十二國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ本月十五日ヨリ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨相達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並

ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(参考) 明治十年十一月七日大藏省甲第三十二號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金拾万圓ヲ以テ長野縣管下北第二十七大區五小區信濃國水内郡飯山町二百二十五番地ニ設立シタル第二十四國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布

達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一コシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(参考) 明治十年十一月十日大藏省甲第三十三號布達

當省本年甲第三十二號布達第二十四國立銀行資本金拾萬圓ハ八萬圓ノ誤リニ候條此旨更ニ布達候事

(參考) 明治十年十二月大藏省甲第三十五號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金拾萬圓ヲ以滋賀縣下第十六區長濱神戶町二番地ニ設立シタル第二十一國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ來ル十五日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及支配人ノ名印并ニ裏面

割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十年十二月七日大藏省甲第三十六號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金五萬五千圓ヲ以テ熊本縣下第一大區二小區新古川町百三十番地ニ設立シタル第九國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ來ル十五日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布

告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ
只表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并
ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本和添ハ
サル事

(參考) 明治十年十二月八日大
藏省甲第三十七號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金拾六万圓ヲ以
テ長崎縣下第一大區五小區東濱町三百二十六番
地ニ設立シタル第十八國立銀行ニ於テ公債證書
ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ來ル廿日ニ
リ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セ
シメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債

證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公
私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事
但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ
只表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并
ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本和添ハ
サル事

(參考) 明治十年十二月二十一日
大藏省甲第三十八號布達

第五國立銀行發行紙幣ノ儀同銀行本店東京第一
大區十四小區堀越町一丁目一番地ニ於テ交換爲
致候旨明治九年當省甲第二十三號ヲ以テ布達及

銀行條例

置候處今般同銀行支店鹿兒島縣下第一大區三小區築町五番地ニ於テ本店同様交換爲致候條此旨布達候事

(參考) 明治十年十二月廿七日 大藏省甲第四十號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金廿五萬圓ヲ以テ東京府下第一大區十六小區靈岸島越前堀二丁目二番地ニ設立シタル第三十國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ明二十八日ヨリ二十四圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其

他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本和添ヘサル事

(參考) 明治十年十二月二十七日 大藏省甲第四十一號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金五萬圓ヲ以滋賀縣下若狹國遠敷郡小濱鹽竈町八十一番地ニ設立シタル第廿五國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當

トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ來明治十一年一月
四日ヨリ二十四圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ
發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以交換爲致候條
公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一
切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候
事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ
唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並
ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘ
サル事

(參考) 明治十年十二月二十八日
大藏省甲第四十二號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金二十一萬圓ヲ
以東京府下第一大區六小區本材木町一丁目一番
地ニ設立シタル第二十七國立銀行ニ於テ公債証
書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ本日ヨリ
二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシ
メ右本店ニ於テ通貨ヲ以交換爲致候條公債証書
ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ
取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ
唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並

銀行條例

ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘ
サル事

(参考) 明治十一年一月二十五日
大藏省甲第四號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金十三万圓ヲ以
テ大坂府下第一大區九小區北濱四丁目十四番地
ニ設立シタル第三十二國立銀行ニ於テ公債証書
ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ來ル二月一
日ヨリ二十圓十圓五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發
行セシメ右本店ニ於テ交換爲致候條公債証書ノ
利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取
引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

他シ右紙幣ノ備ハ明治六年八月第三百四號布
告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ
唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印并
ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘ
サル事

(参考) 明治十一年四月二日
大藏省甲第十號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金十萬圓ヲ以テ
愛媛縣下第十七大區十三小區伊豫國宇和郡川之
石浦五番地ニ設立シタル第廿九國立銀行ニ於テ
公債証書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置三月三
十日ヨリ一圓紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通

貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅
ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑
念授受可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九十號布告
ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十一年一月十五日
大藏省甲第一號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金十二萬圓ヲ以
テ静岡縣管下遠江國濱松傳馬町十番地ニ設立シ
タル第二十八國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當ト
ナシ更ニ引換準備金ヲ置キ本月ヨリ二十四圓
五圓二圓一圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ

於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト
海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總
テ無疑念授受可致此旨布達候事

但シ右發行紙幣之儀ハ明治六年八月第三百四
號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニ
シテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名
印并ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相
添ヘサル事

(參考) 明治十一年五月十一日
大藏省甲第十五號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金十萬圓ヲ以テ
大坂府下第一大區九小區高麗橋五丁目十九番地

ニ設立シタル第三十四國立銀行ニ於テ公債証書
ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置一圓紙幣ヲ發行
セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公
債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切
公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九十號布告
ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十一年五月廿一日
大藏省甲第十六號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金五萬圓ヲ以テ
神奈川縣下武藏國多摩郡八王子横山宿百十四番
地ニ設立シタル第三十六國立銀行ニ於テ公債証

書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置一圓紙幣ヲ發
行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條
公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切
ノ公私取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九十號布告
ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

(參考) 明治十一年五月廿三日
大藏省甲第十七號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ福島縣下岩代國若松
大町一之町七番地ニ設立シタル第三十一國立銀
行ニ於テ公債証書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ
置キ一圓紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ト

交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除ノ外
租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致
此旨布達候事

但書同上

(參考) 明治十一年五月廿三日
大藏省甲第十八號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ大坂府下第一大區十
五小區道修町四丁目一番地ニ設立シタル第二十
六國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トシ更ニ引換
準備金ヲ置キ一圓紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於
テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海
關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ

無疑念授受可致此旨布達候事

但書同上

(參考) 明治十一年五月卅一日
大藏省甲第二十號布達

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ京都府下下京第三區
玉藏町百二十一番地ニ設立シタル第四十九國立
銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金
ヲ置一圓紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ
以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除
ノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受
可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九十號布告

銀行條例

ノ品ト同一ニ付別段見本和添ヘサル事

明治十一年四月廿日
大政官第七號布告

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外
ノ商賣ヲ盛ニスルヲメ新ニ壹千貳百五拾萬圓ノ内國
債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切大藏
卿へ御委任相成候條此旨布告候事
但詳細ノ儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

(改正) 明治十一年七月七日大
藏省甲第二十三號布達

起業公債証書發行條例中左ノ條々加除候條此旨布達候
事

起業公債証書發行條例第五條第一節ノ次ニ左ノ二節ヲ
加ヘ順次第二節第三節トス

起業公債証書發行條例

第二節 此公債証書紛失盜難又ハ流焼失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ証書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有主トナリシトキノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置償却年限ノ末期ニ至ル迄該証書終ニ顯出致サズ全ク消滅セシニ相違ナキニ於テハ該証書ニ對シテ積リタル利息元金トモ一同之ヲ拂渡スベシ

第三節 前節届出ノ後該証書顯出シ而シテ未タ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サズシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ベシ

但前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キトハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコトアルベシ
 同第三條第二節但書割註ノ「拂込十五日云々」ノ四十字ヲ同條第四節ノ「月割」ノ下ニ移シ同割註「〇」以下十三字ヲ削除ス同第五條割註「証書ノ毀損」ノ下ニ「紛失盜難流焼」ノ七字ヲ加フ

(參考) 明治十一年五月一日大藏省甲第十三號布達

今般内國債募集ノ儀ニ付本年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債証書發行條例別冊ノ通相定施行セシメ候條此旨布達候事

起業公債証書發行條例

起業公債証書發行條例

此公債ハ明治十一年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル爲起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債証書ヲ交付シ年限ヲ定テ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 公債証書元高種類并利息ノ制限

ヲ示ス

第一節 此公債ノ元高ハ一千二百五十万圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目(即明治十三年)ヨリ先二十三年間ヲ限リ(即明治卅五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲ル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂

戻スヘシ而シテ其利息ハ(第三條第二節ノ但書並ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ニ皆濟ノ後ヨリ明治卅五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割抽籤(十五日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六日以後ニ係ルハ半个月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシテ迄ノ分下渡スヘシ

第二節 此公債証書面ノ金高ヲ五百圓百圓五十

圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス

但本文ノ利札ハ每半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切取リ引換ニ其金額一ヲ得ヘキモノトス

第二條 公債証書授受賣買等ノコトヲ示ス

第一節 此公債証書ハ第六條ニ掲ル記名ニ變更スル分ヲ除キ所有主ノ名ヲ不記故ニ書換又ハ捺印ヲ受ル等ノ手數無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意タルヘシ
但質入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人へ遺物モ勝手タルヘシ

第三條 募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス
第一節 此公債ノ募集方並ニ元利金ノ渡方トモ

都テ第一國立銀行並ニ三井銀行へ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及ヒ利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及其取引仲ケ間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フヘシ

第二節 募リニ應ジ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣告スヘシ
但第三割拂込ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割拂込十五日以前ニ係ルハ半年分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス

(第四節ノ月割法亦之ニ做フ)ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ
 第三節 右四度ノ内手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ
 受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト
 引換ニ假証券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假証券ヲ
 以テ舊假証券ト取換ヘ第三割拂込濟ニ至リ
 此公債証券ヲ假証券ト引換交付スヘシ
 但公債証券ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之
 ヲ交付スヘシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金
 トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘ
 ハ共高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割ヲ以
 テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ
 第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムル
 者付テハ若シ初度ノ手付金和濟ニ其第一割
 拂若シクハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ
 者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸
 セシメテ返與セサルヘシ

第六節 出金未ダ替濟ニ至ラス此公債証券受取
 ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割
 拂ヨリ交付シタル假証券ヲ授受買賣質入書入
 ニスルハ(外國人ヲ除ク外)勝手タルヘシ尤モ授
 受買賣ノ節ハ其証券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)
 ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ヲ記
 載シ且調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ
愆期スルキハ本條第五節ノ通ナルヘシ

第七條 若シ申込ノ出金高募集スヘキ見込高
ヨリ超過スルキハ該銀行ニテ之ヲ總體ノ申
込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シ其手付金
ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ迴ス
ヘシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方
法ヲ設ケテ之ヲ減却スルコトモアルヘシ

第四條 抽籤ノ手續概略ヲ示ス

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ム
ルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ
十月中該地方身柄ノ人ニテ此ノ公債証書(無記

名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ニ大藏
省國貨局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上
立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ証書ノ
記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新
聞紙等ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 証書ノ毀損等ノ心得方ヲ示ス

第一節 此公債証書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ
等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナシ
正真ノ証書タルヲ保認スヘキ分ハ當然ノ規則
ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スヘシ尤過失ニテ此
公債証書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要
ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認シ難キ程ノ墨

付等アレハ速ニ其手續キテ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニアル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論証書面ニ金高番號記號ノ部分必判然存在シ真正ノ証書ニ相違ナシト見認ムル分ハ之ヲ引換ヲ爲スヘシ但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第六條 記名公債証書ニ變改スル手續並變改セシ以後ノ規則ヲ示ス

第一節 此公債証書ハ授受賣買等ヲ便ニスル爲

メ本來無記名ナレド所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名証書ト爲スヲ得ヘシ其變改ノ手續並ニ規則左ノ如シ

第二節 無記名証書ヲ記名ニ變改スルニハ証書ヲ引換ルニアラスシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモトス

第三節 右記名ヲ請願スルコハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本店若シハ取引仲ケ間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ支店並ニ取引仲ケ間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ請願人ノ姓名住所並ニ入用証書ノ金高等ヲ詳記シ大藏

省へ具申シ記名極印濟ノ証書ヲ(記名紙相添へ)受取リ之ヲ其本人へ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管轄廳へ持出テ記名其他次第ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省へ具申ノ上ハ同省ニ於テ該証書ニ記名シタル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行へ送付シ其本人へ交付シ本人ヨリ管轄廳へ持出ルモノトス管轄廳ニテハ該証書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該証書ニ記名紙ヲ糊附シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及公債掛ノ捺

印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主へ付與スヘシ但一旦無記名証書ヲ引受ケ置退テ記名ニ改メント欲スル者ハ証書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添へ管轄廳へ申立ツヘシ管轄廳ヨリハ願人へ証書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省へ具申シテ極印濟ノ証書並ニ記名紙ヲ受取リ成規ノ如ク再ヒ之ヲ其人へ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ大藏省ヨリ受取置モ適宜ナルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名証書ヲ記名証書ニ變更シタル上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲

シ又ハ紛失盜難及ヒ流焼失等ノ廉ハ明治八年
(五月)太政官第九十五號布告改正新公債証書發
行條例第六條七條八條九條十條ニ適用スヘシ
尤モ右條例ヲ此記名公債証書ニ適用スル場合
ニ於テハ右條例中換用ノ文字并不用ノ廉々左
ノ如シ

但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債証書ト
同様ナルモノトス右條例第六條ヨリ第十條
迄ノ中ニ「新舊公債証書共」並ニ「新舊公債証書」
トアルハ都テ此「記名公債証書」ト改ム同第六
條第一節但書ノ共都度大藏省ヘ「届出ヘシ」テ
「置クヘシ」ニ改ム同條第二節ニ「証書裏面」ニ

形ノ通り(裏面離形)ハ都テ「記名紙」ノ末ニ附ル
離形ノ通り」ト改ム同條第三節ノ「大藏省」ハ
云々」ノ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム同條第四節
ノ但書ヲ削除ス同條第五節並ニ第七節八節
ノ「証書」ニ「割印」ハ都テ「記名紙」ニ「割印」ニ改ム同
條第七節ノ「且大藏省」ハ一月分翌月五日迄
ニ云々」ノ廿七字ハ不用同條第九節ノ「就テハ
年々元利金云々」ノ十八字ヲ「九年々元利金拂
方」ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニ拂渡スヘシ」ニ
改ム同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字並ニ
「年々元利請取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字
及ヒ第十二節ヲ削除ス同條同節中ノ「前條」ヲ

起業公債証書發行條例

「第七節」ニ改ム同第七條第一節ノ「其所持人へ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人ヨリ共其持參人へ（外國人ヲ除クノ外）相渡スヘシ」ニ改ム同第八條割注ノ二十二「此公債証書記名紙繼足ノ手續ヲ明ニス」ニ改ム同條第一節ノ裏面「記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘粹」ニ改ム「証書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス同條第二節ノ「地方官廳」ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條 証書贋造等ノ處分ヲ示ス

第一節 此公債証書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲ爲スヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上共金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節 此証書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ贋造セシメ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋ト知リテ通用シ又ハ証書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコトアレハ利息

及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ
之ヲ改正スヘシ
第二節 右增補改正等アルキハ速ニ其旨趣ヲ公
告スヘシ

明治十一年五月

大藏省

記名紙雛形

本文証書何大區何小區何町
何某へ相渡候者也

何府公債掛

明治何年何月何日

何某印

一此証書是迄拙者所持之處貴殿へ讓渡候
事實正也

明治何年何月何日

甲何某印

何府
縣下何大區何小區

乙何某殿

本文之通相違無之者也

何府

公債掛

明治何年何月何日

何某印

(參考) 明治十一年五月廿八日 司法省

起業公債証書發行ニ付云々ノ儀別紙之通太政官ヨリ御達有之候條此旨相達候事

司法省

別紙大藏省伺起業公債証書發行ニ付(第一國立三井)銀行へ申込書並同銀行ヨリ發スル受取書假証券印紙貼用ニ不及儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

明治十一年五月廿一日

太政大臣三條實美

起業公債証書發行ニ付(第一國立三井)銀行へ申込書並同銀行ヨリ發遣候受取書假証券印紙貼用ノ儀ニ付伺

今般發行候起業公債証書引受方各人民ヨリ(第一國立三井)兩銀行へ申込書並割拂出金ノ受取書及ヒ假証券印紙貼用ノ儀ニ付同兩銀行ヨリ伺出候ニ付審議候處右申込書ノ儀ハ証券印稅規則第二類金銀約定證書ニ類似候得共今般公債發行ノ如キハ稀有ノ舉ニ付右申込書ノ如キハ此回限り兩銀行一手ニ收受候儀ニテ民間ニ永ク散布可致者ニモ無之且ハ當省ヨリ委任シタル兩銀行於テ受取候申込書ノ儀ニ候得ハ其實上納書ノ筋ニモ相當リ候間旁以今般特別ノ譯ヲ以テ印紙界紙ヲ用ルニ不及旨右兩銀行へ及指揮可然哉將又受取書及假証券ノ儀ハ別紙(略ス)御照會ノ通去ル七年

起業公債証書銀行條例

第八十九號公布ヲ以證券印稅規則第二則第六條
增加ノ廉ニ準シ到底官金ヲ兩銀行へ預ケ候筋ニ
相當リ候間是亦印紙界紙ヲ用ユルニ不及旨及指
揮可然ト存候得共右稅則中明文ニ無之儀ニ付一
應仰高裁候條至急御決裁有之度此段相伺候也

明治十一年五月十五日

大藏卿 大隈 重信

太政大臣 三條 實美 殿

(朱書指令)

伺之通

明治十一年五月廿一日

明治十一年一月十七日 太政官
第二號ヲ以官院省使府縣へ達

金穀及ヒ物品出納ノ實況檢査ノ爲メ大藏省官員ヲシテ
毎歲各廳へ派出セシメ條候此旨相達候事

但別冊檢査員派出規程爲心得相達候尤モ臨時派出ノ
儀ハ明治七年(八月)第百九號達ノ通可相心得事

檢査員派出規程

第一條 本年第一號達ニ基キ各官廳ニ整備スル内譯明

細簿ヲ始メ總テ金穀及ヒ物品ノ出納并ニ計算ノ實況

ヲ檢査スル爲メ毎歲二回ヨリ少カラス檢査員ヲシテ

官院省使府縣ニ派出セシムヘシ

第二條 大藏卿ハ檢査員ヲ派出セシムルノ時凡十五日

前ニ於テ其旨各廳ニ告知スヘシ

檢査員派出規則

第三條 検査員ヲ各地方ニ派遣スルハ連接ノ地方ヲ區分シ一區ニ派遣ノ人員ヲ兩名ト定メテ巡回セシムヘシ

第四條 検査員ノ各地方ニ滞留シテ事務ヲ検査スルハ豫メ日數ヲ限ラズ該事務ノ便宜ニ從フヘシ

第五條 各廳ニ於テ周年收支ノ目途ヲ立ツルハ該年豫算決定ノ金額ニ基クモノナリト雖モ或ハ成規ニ違ヒ其宜ヲ得サルモノアレハ之ヲ更正セシムヘシ

第六條 検査員派出前送達セシ勘定帳ノ内成規ニ扨觸スルノ條又ハ事由不明瞭ノ件アレハ検査員之ヲ携帶シ該廳ニ就テ検査シ未タ送達セサル向ハ該廳ニ到リ其帳簿ニ就テ検査スヘシ

第七條 勘定帳ノ調成稽滞スル者ハ其事件ト所由トヲ推究シテ大藏卿ニ具申スヘシ

第八條 勘定帳内譯明細簿ノ内成規ニ悖戾スル等ノ件アルトキハ其事由ヲ掲記シ該廳長官ニ申報スヘシ若其事理不明了ニシテ成規ノ照准スヘキナキカ或ハ該廳長官ノ專斷ニ出ルカ如キハ詳悉具狀シテ決テ大藏卿ニ請フヘシ

第九條 内譯明細簿ノ内前條ニ掲グル類夥多ナルトハ其簿冊ヲ携帶シ歸テ省中ニ於テ検査スルコトアルヘシ

第十條 出納検査ニ要用ナル計簿ハ悉皆點檢スルヲ得

検査員派出規則

第十一條 府縣經費ノ内目今某省へ稟議中ニテ未タ指
令ヲ得サルカ又ハ甲ノ省府縣ヨリ乙ノ省府縣へ一時
繰替金等アリテ夫カ爲メ結算ニ至ラサルモノハ其事
實ヲ精覈シ該狀ヲ大藏卿ニ具申シテ其指圖ヲ受クヘ
シ

第十二條 經費ノ内主管ノ廳へ請求スヘキ費用ニシテ
未タ調理整頓セサルカ故ニ請求ノ場合ニ至ラス之レ
カ爲メ結算ニ支障アルモノハ速ニ調整請求セシムヘ
シ

第十三條 經費ノ殘餘或ハ諸收入金ノ納付スヘキモノ
アルキハ速ニ完納セシムヘシ

第十四條 銀行又ハ爲換方ト各廳トノ間ニ交渉セル事

務或ハ官金直取扱ノ向ハ其順序ヲ精覈シ若シ了解シ
難キヲアルキハ推問ノ上其事狀ヲ大藏卿ニ具申スヘ
シ

第十五條 該廳ニ現在ノ金ハ大藏省及ヒ各廳ヨリ交付
シタル金又ハ預金其他諸收入金等總テ現金有高帳ニ
照シ其員額ヲ點檢シ區分明瞭荷モ交互錯雜ナカラシ
ムヘシ

第十六條 歳入出豫算決算ノ法則月俵旅費其他雜給ニ
關スル規則或ハ簿記ノ離形計算ノ法方等曉解シ難キ
ノ條件アリテ諮問ヲ受クルキハ例規ニ照シ事理判明
ナルモノハ其趣旨ヲ以テ回答スヘシ
但疑問ノ回答ハ派出檢査員ノ名ヲ以テス

檢査員派出規則

第十七條 疑問照會ヲ受サル件ト雖トモ検査ノ際該廳
ニ於テ成規ヲ誤解セシト認ムルモノアレハ其旨ヲ説
明シテ成規ニ據ラシムヘシ

第十八條 物品請拂ノ計算ニ於ルモ前各條ニ掲載スル
例規ニ准シ検査スヘシ

第十九條 派出検査員ハ勘定帳及ヒ明細簿検査ノ形狀
ヲ始メ各廳出納事務ノ實況計算方法ノ得失等ヲ詳悉
シ以テ復命書ヲ作り之ヲ大藏卿ニ出スヘシ

明治九年六月十三日太政官第六
十四號ヲ以テ官院省使府縣へ達

明治五年十月第三百九號達旅費定則及爾後追々改正増加
ノ分共本年六月三十日限り相廢シ更ニ別冊ノ通相定七
月一日ヨリ施行候條此旨相達候事

別冊

旅費定則

内國之部

第一章

一 陸路水路トモ渾テ旅中一切ノ費用トシテ表面ノ通旅
費日當ヲ支給ス可シ

第二章

一 陸路旅費ヲ三分ノ並旅行赴任旅行晝夜急行トナシ各

旅費定則

一日十里計ヲ以テ表面ノ日當チ支給ス可シノ十里以上

給滿一里以上ハ日當一十分チ

第一項 並旅行ハ該應ヨリ片道六里以上ヨリ之ヲ

給ス片道六里未滿ハ

第二項 赴任旅行ハ在勤所ノ常務ニ服スルヲ總テ其

及新任轉任ノ節該應ヘ三里以上ヨリ一切給セスハ

之ヲ給ス尤新任ノ者ハ第十七章ノ相當ヲ以テ支

給ス尤新任ノ者ハ其採用ノ官廳ヨリ給ス

可シ尤新任ノ者ハ其採用ノ官廳ヨリ給ス

給ス尤新任ノ者ハ其採用ノ官廳ヨリ給ス

第三項 晝夜急行 晝夜兼テ急ハ第一項ニ準シ急

行ノ日當チ給ス 行スルモ亦全シ

第四項 該應ヨリ片道六里未滿ノ旅行ハ總テ出張

ヲ拘ハ近方派出トシ片道三里未滿コシテ日歸ナ

レハ日當チ給セス一泊スレハ滯留日當チ給シ片

道三里以上六里未滿ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニ

テ並旅行日當一日分チ給シ滯在スレハ滯留日當

チ給ス

第五項 出張先滯在中片道三里以上ノ地ヘ派出ノ

節ハ第四項ニ準シ並旅行ノ日當チ給ス尤三里未

滿ノ地ヘ同斷ノ節ハ第三章滯留日當ノ外一切給

與セス 事業中縱橫奔走ノ

第六項 行旅中渡海ニ非ラサレハ至リ難キ場所ハ

海路二十里 海路一里ハ陸路十

六路丁九分七厘五毛

ヲ以テ陸路十里全

旅費定則

九二五

様見做シ本章ニ準シ並旅行日當ヲ給ス海路二十里未滿ノ端里數ハ本項ノ割合尤官船乗組渡海ノ節ハ第四章ニ準據ス

第七項 巡回 検田測量其他巡ハ總テ日數ニ應シ程里ハ算並旅行日當ヲ給ス但シ近方派出ハ第四項ニ準セシ滞在ノ節ハ第三章ニ準ス

第八項 十里外ヨリ始ル巡回及ヒ此地ヨリ彼地ヘ移ルトキ十里以上ノ場所ハ本章ニ準シ並旅行日當ヲ給シ即日巡回スルトモ其日ハ別ニ日當ヲ給セス尤十里未滿ハ第七項ニ準シ日數ヲ以テ給ス

第九項 測量或ハ堤防等ノ事業ニテ巡回滞在中旅宿ヨリ共測量等ノ場所ヘ日々派出スルモ日歸ナ

レハ拘ラヌ別ニ旅費ヲ給セズ滞留日當ノミヲ給スハ泊以上ハ里程ニ拘

第三章

一 他方出張 本廳ヨリ支廳ヘ臨時出張支廳在勤ハ若翌日ヨリ滞留日當ヲ支給ス可シ

第一項 晝夜急行或ハ便船等ニテ陸路日積ヨリ早着スルトモ本章ニ準シ滞留日當ヲ給ス

第二項 行旅中川留雪支或ハ病氣等ニテ延滞セシ向ハ増日數ノ分滞留日當ヲ給ス但シ川留雪支ハ其所戸長ノ証書病氣ハ醫師ノ診察書ヲ差出ス可シ

第三項 出張先病氣ニテ許可ヲ得事務半途ニシテ

旅費定則

本廳へ歸ル者ハ旅費ヲ給シ重症ニテ一時其地ニ
滞在ヲ乞フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ以テ願出レハ滞
留日當及歸廳ノ節ハ旅費ヲ給ス

第四項 三里以上ノ地ヨリ採用ノ向ハ着翌日ヨリ
拜命ノ前日マテ第十七章ノ相當ヲ以テ滞留日當
ヲ給ス

第五項 歸省或ハ養病ニテ他所滞在中轉任ノ者ハ
其滞在地ヨリ新任廳マテノ旅費ヲ給シ滞在地ヨ
リ前官廳マテノ旅費ハ給セス

第四章

一官船或ハ各廳ノ儲船等ニテ國內航海并海路巡回ハ日
數ニ應シ日當及ヒ賄料ヲ支給ス可シ

第一項 官費ヲ以テ仕賄ノ節ハ旅費ノ等級一二等
ニ該ル者ハ主從ヲ合セテ上等壹人下等貳人同三
等ハ上等壹人下等壹人マテ現員ヲ以テ賄ヒ全四
等ハ上等全五等ハ中等中等下等給仕小使諸職人
等ハ下等各壹人ノ割ヲ以テ仕賄フ可シ故ニ本章
ノ賄料ハ給與セス

第二項 各廳ノ便宜ニヨリ便船乘組渡海ヲ命スル
節船賃ハ旅費ノ等級一等ヨリ四等マテハ上等全
等トシ給仕小使諸悉皆官費ヲ以テシ別ニ本章ニ
職人等ハ下等トス尤從者召連ル節旅費ノ等級
準シ乘組日當ヲ給ス
一二等ハ下等貳人全三等ハ下等壹人ノ船賃ノミ
ヲ支給ス
自己ノ便宜ニヨリ乘船ス
本項ノ例ニアラス

第五章

一 東京横濱及ヒ大坂神戸間ノ流車賃ハ表面ノ通支給
 時ニヨリ一日間ニ往來シ又ハ二日ニ往來スルトモ日
 數ニ應シ別ニ賄料トシテ滞留日當ノ額ヲ給ス若シ到
 着ノ上滞留アラハ第三章ニ準據ス可シ

第六章

一 使府縣管内旅行ハ表面ノ通旅費日當ヲ支給ス可シ
 第一項 管内旅行ノ節道路ノ便宜ニヨリ他ノ管轄
 地ヲ通過スルノ類モ管内ニ準ス尤管内ト雖トモ
 支應等ニ在勤并管外派出其他晝夜急行及ヒ任免
 轉任ノ節旅費等ハ總テ管外ニ準シテ之ヲ給ス
 第二項 各應ノ官員本廳支應ヲ論セス共在勤地府

縣ノ管内旅行ノ節ハ本章ニ準據ス神官及華士族
平民等管内旅
 行ノ節モ亦全

第三項 開拓使管内ハ本廳支應各其所管ノ部内ヲ
 以テ管内トシ其部外ハ本章ニ準シテ旅費ヲ給ス

第七章

一 免職ノ者其日ヨリ三十日以内ニ歸郷願出ル者ハ前官
 ヲ問ハス第十七章ノ相當ヲ以テ表面ノ赴任旅行日當
 ナ歸郷旅費トシテ其在勤又ハ出張ノ地ヨリ郷里マテ
 里程制限ハ第二章支給スヘシ
 第一項 免職後歸郷セサル内ニ再任ナル者ハ旅費
 悉皆返納ス可シ
 第二項 歸省或ハ養病ニテ他行中免職又ハ死去ノ

者モ本章ニ準テ奉職ノ地ヨリ郷里マテ歸郷旅費ノ額ヲ手當トシテ給ス在勤地ニ於テ死去ノ者モ亦同シ

第三項 他方在勤ノ者免職ノ節復命セシムルハ其地ヨリ復命スル地マテハ前官相當ノ旅費ヲ給シ夫ヨリ郷里マテ歸郷ノ旅費ヲ給ス

第四項 出張先ニ於テ免職ノ節家事取纏メノ爲メ從前在職ノ地ニ立戻ル者ハ出張先ヨリ從前在職ノ地マテハ第十七章ノ相當ヲ以テ並旅行日當ヲ給シ夫ヨリ郷里マテ歸郷ノ旅費ヲ給ス尤復命セシムルトキハ第三項ニ準據ス出張先ニ於テ死去前在職ノ地マテハ第十七章ニ準シ並旅行日當額夫ヨリ郷里マテハ第十七章ノ相當ヲ以テ並旅行日當額ヲ手當トシテ

大給

第五項 官吏犯罪又ハ嫌疑等ニテ鞫問中職ヲ死スル者其處決ノ上罪破廉耻甚ニ該ル歟又ハ私罪懲役一年以上ノ刑ヲ受ル者ハ歸郷旅費ヲ給セス

第八章

一 神官ハ總テ左ノ等級ヲ以テ支給ス可シ

官等

旅費等級

神宮祭主

三等

大神宮大宮司

全 少宮司

官幣大社大宮司

大神宮禰宜

旅費定則

四等

- 官幣大社少宮司
- 豐受宮禰宜
- 官幣中社宮司
- 兩宮權禰宜
- 官幣中社權宮司
- 全全 小社宮司
- 兩宮主典
- 官幣大社禰宜
- 官幣小社權宮司
- 兩宮權主典
- 官幣大社權禰宜

五等

- 官幣中社禰宜
- 兩宮宮掌
- 官幣大社主典
- 官幣中社權禰宜
- 全全 小社禰宜
- 全全 中社主典
- 全全 小社權禰宜

第一項 神官ヨリ教導職兼務教導職ヨリ神官兼務
 ナ命シ或ハ免スル節旅費ハ總テ神官相當ノ額ヲ
 給ス尤説教ノ爲メ各地方へ出張ノ旅費ハ一切之
 ヲ給セス

第二項 教導職ハ新任又ハ免職ノ節ニ限リ第十七章ノ相當ヲ以テ往返ノ旅費及ヒ滞在スレハ滞留日當ヲ給ス

第九章

一 御用掛無等ノ出仕又ハ術業其他備抱等ノ名義ヲ以テ出仕セシムル者ハ月俸金額ノ多寡ヲ以テ左ノ通支給ス可シ

月俸金額

旅費等級

三百五十圓以上

三等

三百五十圓未滿三十圓迄

四等

三十圓未滿

五等

第一項 日給ハ三十日分ヲ積算シ月俸同様見做シ

本章ニ準據ス

第二項 該廳へ三里以外ノ地ヨリ呼寄セシ向ニ限リ雇入并罷免ノ旅費ヲ給ス但三里未滿ノ地ニテ雇入ノ者ト雖モ他所在勤中或ハ出張先ニ於テ罷免ノ節ハ該地ヨリ歸郷ノ旅費ヲ給ス

第十章

一 給仕小使諸職人ノ類 陵墓丁獄丁左ノ通支給ス可シ

六拾錢

並旅行日當

三拾錢

滞留日當

壹圓五拾錢

晝夜急行日當

三拾錢

官船渡海日當

五拾錢

全上賄料

旅費定則

五拾錢

東京橫濱間瀛車賃
大坂神戸

第一項 諸職人等出張先ニテ其業ニ就キ相當ノ賃

錢ヲ支給スル分ハ該地滞在中日當ハ給セズ

第十一章

一 外國人ニ附添旅行ノ節乘馬ヲ用ル時等外ハ旅費日當

ノ外馬飼料一日六拾錢ヲ給シ口附ノ者召連ル節ハ別

ニ第十章ニ準シ旅費日當ヲ支給ス可シ

第一項 判任ハ馬飼料ヲ給セスト雖トモ口附ノ者

召連ル節ハ第十章ニ準據ス

第十二章

一 官用荷物運搬費ハ勿論總テ現費支給ノ分ハ証書ヲ添

ニ詳細勘定書ヲ以テ申請ス可シ証書之レナキ分ハ一

切支給セサル可シ

第十三章

一 他方在勤或ハ出張ヲ命スル後其應ノ都合ニヨリ免セ

シ者又ハ出發前死去ノ者ハ片道里程三分一ノ旅費ヲ

給シ巡回ハ見積リ總日數十里外ヨリ始ル巡回及此

行里程ハ日數ニ直シ算入六分一ノ旅費ヲ給ス尤願ニ

ヨリ免シタルモノハ一切支給セサル可シ

第一項 並旅行ノ者出發後半途以內ヨリ呼戻セシ

者ハ片道分ノ旅費ヲ給シ半途ヲ過キ同様ノ者ハ

其里程ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第二項 巡回ノ者出發後半途見積リ總日數四以內

ヨリ呼戻セシ節ハ見積リ總日數計算法本半數ノ

旅費定則

旅費ヲ給シ半途ヲ過キ全様ノ節ハ日數又ハ里數ニ應シ相當ノ旅費ヲ給ス

第十四章

一 廢廳ノ節人撰ノ上事務引渡シテ命シ旅行セシムル者ハ仍ホ舊官相當ノ旅費ヲ支給ス可シ

第一項 免職ノ者事務引渡濟ノ後在職中ノ事件ニ付更ニ出廳ヲ命スルトキハ第十七章ノ相當ヲ以テ給ス尤當時在職ノ者ハ其官相當ヲ以テ支給ス
第二項 往時奉職中ノ公務ニ付糺彈鞫問等ノ呼出キ受ル節モ亦第一項ニ準ス但シ處決ノ上私罪ニ該ル者ハ一切之ヲ給セス

第十五章

一 一日ノ内並旅行ヨリ晝夜急行ヘ跨ル如キ旅行ハ總テ其旅費額ノ多キ方ヲ以テ支給ス可シ

第一項 一日ノ内陸路ヨリ官船等へ乗組又ハ上陸ノ節陸路片道一里以上ノ分ハ本章ニ準シ陸路ノ旅費日當ヲ給シ其日ノ乗組日當ハ之ヲ給セス餘之レニ準據ス 賄料モ籠ル備船等ニテ當日既ニ官費仕賄ヒ分ハ別ニ返償スルニ及スハ

第十六章

一 數官兼任ノ者ハ比較シテ各旅費ノ多キ方ニ從ヒ支給ス可シ

第十七章

一 華族及ヒ有位ノ士民公用ニテ旅行ノ節ハ旅費ノ四等

ヲ以テ給シ無位ノ士民生徒ニ 借侶等同断ノ節ハ旅費
ノ五等ヲ以テ支給ス可シ

第十八章

一 外國行ノ者發程并歸朝ノ節内地陸路通行ノ旅費ハ前
各章ニ準シ國內ノ定規ヲ以テ支給ス可シ 航海ノ都合
上陸ノ節モ亦本章
ニ準シ日當ヲ給ス

第十九章

一 歸省其他養病等許可ヲ得ル者ト雖モ私事ニ渉ル旅行
ハ一切支給セサル可シ

第二十章

一 各廳ノ便宜ニ依リ此定則ニ基キ適宜減少ノ方法ヲ設
クルハ苦シカラス

外國ノ部

第一章

一 外國在勤又ハ出張ノ者ハ支度料日當表面ノ通り支給
ス可シ

第一項 在勤又ハ出張中事務ノ都合ニ依リ一旦歸

朝再ヒ出發シ又ハ外國ニ於テ此國ヨリ彼國ニ移
轉スルモ別ニ支度料ヲ給セス尤御用濟歸朝ノ後

更ニ在勤出張ヲ命スル節ハ此限ニアラス

第二項 日當ハ渡航ノ初日ヨリ内地へ歸着ノ日マ

テヲ通算シテ之ヲ給ス

第三項 在勤又ハ出張ヲ命スル後其廳ノ都合ニヨ
リ死シタルモノ又ハ出發前死去ノ者ハ支度料半

敷ヲ給ス尤願ニ依リ死シタル者ハ之ヲ給セス

第二章

一外國航海船客料并着船ノ港ヨリ出張或ハ在勤ノ都府
マテ瀛車瀛船或ハ馬車賃其他私屬荷物運賃等表面ノ
通定額又ハ概額ヲ以テ之ヲ給ス尤定額ハ過不足精算
ニ及ハス概額ハ實費過不足ヲ精算ス可シ

第一項 陸路旅費ハ表面ノ通概額ヲ以テ給ス故ニ

瀛車賃ハ判任以上上等等外ハ中等其他諸費トモ

右ニ準シ實費仕拂ヲナス可シ

第三章

一外國出張中旅舍賄料ハ日數ニ應シ表面ノ通支給ス可

第一項 賄料ハ若港ノ日ヨリ給シ航海中ハ之ヲ給

第二項 航海中郵船ノ都合ニヨリ不得止上陸スル

トキハ其日數ニ應シ賄料ヲ給ス

第四章

一公用荷物運賃并本國其他へ公信郵便電信料公事交際
ノ費用等ハ現場仕拂ノ高ヲ以テ官費トナス可シ

第五章

一私屬ノ荷物運賃ハ勅奏判任壹人ニ付三拾五貫目等外
壹人ニ付貳拾貫目マテハ官費ヲ以テ之ヲ給シ其以上
ハ自費タル可シ尤航海中ハ別ニ支給セサル可シ

第六章

旅費定則

一官船或ハ各廳ノ備船等ニテ航海スル者ハ船客料ヲ給
セズ内國旅費日當表官船渡海ノ賄料ヲ支給ス可シ

第一項 官費ヲ以テ任賄ノ節ハ勅委任ハ主從ヲ合

セテ上等壹人下等壹人マテ現員ヲ以テ賄ヒ判任

ハ上等等外ハ中等キハ下等 其以下ハ下等各壹

人ノ割ヲ以テ賄フ可シ

第七章

一華族及士民等公用ニテ航海スルトキハ内國ノ部第十
七章ニ照シ御用掛雜等ノ出仕又ハ術業其他備抱等ノ
名義ヲ以テ出仕セシムル者ハ同斷第九章ニ準シ内國
ノ三等ハ外國旅費ノ奏任同上 前各章ニ據リ支給ス可
四等ハ判任五等ハ等外トス

第八章

一諸職人小使ノ類支度料及渡航ノ初日ヨリ内地へ歸若
ノ日マテ左ノ日當ヲ給シ其他船客料旅舍賄料瀛車賃
ハ等外ニ準シ支給ス尤私屬荷物ノ運賃ハ別ニ給セサ
ル可シ

拾貳圓五拾錢 支度料

拾八錢 日當

第九章

一從者ハ願ニヨリ勅委任官ニ限リ壹人ヲ許可シ往返并
在留國內外公用旅行ノ節船客料及瀛車賃行旅中賄料
共等外ニ準シ支給スルト雖モ支度料日當滯在中賄料
ハ總テ支給セサル可シ

旅費定則

第十章

一 全權大使等ノ如キ重大ノ御用ニテ出張ノ向并各國公使領事館在勤ノ者及朝鮮行船客料賄料等ハ此定則ノ外ナル可シ

内國旅費日當表追加

官 級	旅 費 等 級	勅 任		奏 任	判 任	等 外
		一 等	二 等			
京都大坂間 全赴任瀛車賃	京都大坂間 片道瀛車賃	金四圓九十五錢	金四圓廿五錢	金四圓八十錢	金二圓五錢	金二圓廿五錢
		金四圓三十錢	金四圓	金三圓七十五錢	金二圓	金二圓六十五錢
京都神戶間 赴任瀛車賃	京都神戶間 赴任瀛車賃	金四圓九十五錢	金四圓廿五錢	金六圓廿五錢	金四圓廿五錢	金二圓七十五錢
		金五圓九十五錢	金五圓五十錢	金六圓廿五錢	金四圓五錢	金二圓七十五錢

外國旅費中
料客船

(自橫(自橫)トアルヲ) 至何々内地開港場) 一 改

表 當 日 費 放 國 內

官 級	放 費	勅 等		任 等	奏 任	判 任	等 外
		一 等	二 等				
並 放 行 赴 任 旅 行 書 夜 符 滯 留 官 船 渡 海 同 賄 料	並 放 行 赴 任 旅 行 書 夜 符 滯 留 官 船 渡 海 同 賄 料	金八圓	金七圓	金四圓	金三圓	金三圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
府 縣 管 內 同 上	並 放 行 滯 留 片 道 等 費	金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
大 坂 神 戶 間	並 放 行 滯 留 片 道 等 費	金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半
		金拾圓	金拾圓	金五圓	金四圓	金四圓	金四圓半

外 國 旅 費 表

官定額	支度料	日當	旅舍		料
			歐米	州府	
金六百圓	金三百圓	金三百圓	金六圓	金七圓	金五圓
金貳百五十圓	金貳百圓	金貳百圓	金五圓	金六圓	金四圓
金百三十圓	金壹百圓	金壹百圓	金三圓	金四圓	金三圓
金六十圓	金六十圓	金六十圓	金三圓	金四圓	金三圓
官定額	料	客	船	自橫濱	自橫濱
一等	一等	一等	一等	自橫濱	自橫濱
二等	二等	二等	二等	自橫濱	自橫濱
三等	三等	三等	三等	自橫濱	自橫濱
概額	概額	概額	概額	概額	概額

(改正) 明治九年十二月十一日太政官第百十三號ヲ以テ院省使廳府縣へ達
 本年六月第六十四號旅費定則左ノ通改正増補候條此旨相達候事

但京都大坂間瀛車賃給額ノ儀ハ本月十五日ヨリ施行候儀ト可相心得事

旅費定則

内國ノ部

第二章

一陸路旅費ヲ三分シテ云々

(増補) 第十項 並旅行ハ一日十里詰ト定ムルト雖モ御用柄ニヨリ百里ノ行程ヲ十二三日ニ旅行スルカ如キ事實不得止節ハ右増日數ニ應シ表面ノ

旅費定則

通滞留日當ヲ給スヘシ

(同) 第十一項 地方出張ノ者甲乙丙ノ各地へ兼行スルルハ都テ本廳ヨリ丙地迄ノ片道里程ヲ通算シ途中尙各地へ立寄トモ別段區分セズ丙地迄ノ里程へ合算シ十里詰ノ割ヲ以テ旅費日當支給スヘシ

第五章

一東京横濱及ヒノ下(京都)ノ二字ヲ増補ス

(増補) 第一項 京都ヨリ神戸ニ至ル瀛車ハ一線路ニ付

滞留日當ハ本章ニ準シテ支給スヘシ

(同) 第二項 赴任及ヒ免職歸郷ノ者ハ表面赴任瀛車賃及ヒ賄料トシテ滞留日當ノ額ヲ支給ス

(同) 第三項 東京横濱并京都大坂神戸間ノ線路中間ノ「ステーション」へ東京ヨリ神奈川迄大坂ヨリ西ノ宮迄京都ヨリ茨城迄ノ類行旅スルモノ赴任ハ陸路三里以上ヨリ並旅行ハ片道六里以上ヨリ本章ニ準シ六里未満ハ第二章第四項ニ準シ往返コテ表面瀛車賃及ヒ滞留日當一箇ヲ給ス尤下車ノ上陸路一里以上經過スルモノハ此例ニアラス

第十章

一給仕小使諸職人云々

(増補) 六拾錢 京都 大坂 間瀛車賃

第十五章

(改正)

旅費定則

一並旅行ヨリ晝夜急行ニ轉スル如キハ総里數ヲ十里
毎ニ區分シ其十里ノ内互ニ相跨ル里數ハ總テ旅費
額ノ多キ方ヲ以テ支給スヘシ十里未滿ノ旅行モ亦
之ニ准ス

第一項 従前ノ通

(改正)

明治十一年一月十九日太政官
第三號ヲ以官院省使府縣ニ達

明治九年六月六十四號達旅費定則第八章中神官旅費等
級左之通り改正候條本年一月一日ヨリ施行可致此旨相
達候事

官等旅費等級

- 神官祭主 三等
- 神宮々々司 官幣國幣大社宮司 神宮禰宜 官幣國幣
- 中社宮司 四等
- 官幣小社別格官幣社國幣小社宮司 官幣國幣大社禰
宜 神宮主典 官幣國幣中社禰宜 官幣小社別格官
幣社 國幣小社禰宜 神宮々々掌 官幣國幣大社主典
官幣國幣中社主典 官幣小社別格官幣社國幣小社主

旅費定則

典 五等

九五四

(追加) 明治九年十二月廿七日太政官第
百二十號ヲ以院省使府縣ニ達

本年六月第六十四號達旅費定則中内國ノ部ニ左ノ通追加
候條此旨相達候事

第二十一章

一百里外

行幸 行啓ノ節供奉ノ者ニ支度料左ノ通支給スニ

太政大臣

左右大臣

金三百圓

一等官

金二百圓

二等官

三等官

金百五十圓

奏任官

金百圓

判任官

金五十圓

等外吏

金拾五圓

但五十里外供奉ノ者ニハ本文金額ノ三分ノ
ニヲ給ス

旅費定則

九五五

(追加)

明治十年二月九日太政官第二十四號ヲ以官院省使府縣へ達

明治九年六月第六十四號同月十二日第百二十號達旅費定則中内國ノ部第二十一章但書へ左ノ通追加候條此旨相達候事

第二十一章

一百里外

云々

但五十里外云々

- 一 供奉ヲ命スル後其應ノ都合ニヨリ免シタルモノ
- 又ハ出發前死去ノ者ハ半額ヲ給ス願ニ依リ免シタルモノハ之ヲ給セス
- 一 供奉出發後途中ニ於テ免セシ者又ハ死去セシ者

ハ全額ヲ給スヘシ

(増補)

明治十年八月六日太政官第十五號ヲ以官院省使府縣へ達

明治九年六月第六十四號達旅費定則第二章へ左ノ通増補候條此旨相達候事

第二章

第十二項 各廳及支廳又ハ出張所ニ於テ三里以上ノ地ヨリ採用シ該廳在勤ヲ命セス一時滯留セシメ追テ任所へ赴ク者ハ本人原住ノ地ヨリ滯留ノ地迄ハ第十七章ノ相當ヲ以テ給シ夫ヨリ任所迄ハ直路里程ニ應シ官等相當ノ赴任旅費ヲ給シ滯留中ハ拜命前後ヲ區分シテ滯留日當ヲ給ス其三里以内ノ地ヨリ採用セシ者

旅費定則

ハ滞留地ヨリ任所迄前同様赴任旅費ノミヲ給スヘシ
但官ノ都合ニ因リ支感又ハ出張所ノ近傍へ特ニ止宿
セシムルハハ滞留日當ヲ給ス

(参考) 明治九年八月十日太政官第八十
號ヲ以東京府ヲ除ク府縣へ達

明治八年十一月第一百九十五號達巡查旅費定則及本
年第一第七號月第二十一號達増補ノ分共別表ノ通
改正候條來ル九月一日ヨリ施行可致此旨相達候
事

但地方ノ見込ヲ以適宜減省候儀ハ不苦候事

巡查旅費日當定則表

官	並旅	名	巡	查
赴任	行	行	一圓	五錢
晝夜	旅行	旅行	一圓	二十錢
滞	急行	急行	一圓	五十錢
官船	留	留	三十	錢
同	渡海	渡海	六十	錢
府縣	賄料	賄料	五十	錢
同	行並管府	行並管府	八十	錢
召募	並旅	並旅	二十	五錢
免職	行	行	五十	錢
歸國	滞留	滞留	八十	錢
東京	歸國	歸國	三錢	五厘
橫濱	車道間神大橫東	車道間神大橫東		
坂	賃瀛片戸坂濱京	賃瀛片戸坂濱京		
臨時	料辦當	料辦當		

(参考) 明治十一年四月
十五日內務省達

地理局土木局官員旅費改正ノ儀別冊ノ通太政官